

新規事業採択時評価結果（平成28年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：川崎 茂信

事業の概要

事業名	一般国道470号（能越自動車道） 田鶴浜七尾道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：石川県七尾市赤浦町 至：石川県七尾市千野町	延長	3.4 km		
<p>事業概要</p> <p>能越自動車道は、石川県輪島市から北陸自動車道小矢部砺波ジャンクションに至る延長約117kmの高規格幹線道路であり、これまでに約96kmが供用済である。</p> <p>田鶴浜七尾道路は、能越自動車道の一部を構成する道路で、七尾市赤浦町から同市千野町に至る延長3.4kmの自動車専用道路である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>田鶴浜七尾道路は、高規格幹線道路ネットワークの形成による能登地域への企業活動、観光振興、救急搬送を支援し、七尾市内の交通渋滞の緩和に寄与するものである。</p>					
全体事業費	約95億円	計画交通量	約7,300台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

【石川県】

「一般国道470号（能越自動車道）田鶴浜七尾道路」事業の予算化については、同意いたします。能越自動車道は、北陸自動車道・東海北陸自動車道と連携し、能登地域の広域観光、産業活動等に大きく寄与するとともに、災害時における緊急輸送道路として、県民の安全・安心の確保に大きな役割を担う重要な路線であります。本事業箇所を含む能越自動車道全線の早期整備が図られるよう、格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

学識経験者等の第三者委員会の意見

一般国道470号（能越自動車道）田鶴浜七尾道路については新規事業として妥当である。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。
 手続きの完了：都市計画決定済み（平成23年12月13日）であり、事業実施環境が整っている。

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.1 (1.2)	総費用：8,013億円 （事業費：7,402億円 維持管理費：611億円）	総便益：8,537億円 （走行時間短縮便益：6,155億円 走行経費減少便益：1,480億円 交通事故減少便益：902億円）	基準年 平成27年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=0.97（交通量 -10%）	B/C=1.2（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.1（事業費 +10%）	B/C=1.1（事業費 -10%）	
		事業期間変	B/C=1.1（事業期間 +20%）	B/C=1.1（事業期間 -20%）	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	主要渋滞箇所を含む当該区間の現道における渋滞の減少が見込まれる。	
		事故対策	○	北陸管内直轄国道における平均死傷事故率の約3倍である国道159号の七尾市街地部当該区間の現道における事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】 [現況] 127.2件/億台キロ→[整備後] 92.9件/億台キロ（約3割減少） ※当該区間に並行する路線国道159号の七尾市街地部における平均死傷事故率	
	歩行空間	○	通過交通の抜け道となっている道路の安全・安心が確保される		
	社会全体への影響	住民生活	○	第3次救急医療施設（能登総合病院）までの搬送時間短縮による救急医療活動の支援が見込まれる。 【最寄りICからの距離】 [現況] 約5.0km→[整備後] 約1.3km（約3.7km短縮） 【主要渋滞箇所の通過】 [現況] 有→[整備後] 無	
		地域経済	◎	北陸自動車道や東海北陸自動車道との接続により、能越自動車道を活かした企業誘致の取組や最大都市圏をマーケットとする企業活動を支援。	
		災害	-	注目すべき影響は無い。	
環境		-	注目すべき影響は無い。		
地域社会	◎	対象区間の整備と観光地までのアクセス道路との一体的な整備により、周遊観光ネットワークを形成。「H37年の観光入込客数の目標3,000万人」に向けた取組を支援。			
事業実施環境	○	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定 H23.12.13 石川県知事や七尾市長、能越自動車道建設促進期成同盟会より積極的な要望活動が行われており、地元の期待は大きい。 			

採択の理由

費用便益が一体評価で1.1、個別評価で1.2と便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、住民生活、地域経済、地域社会など事業効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業を平成28年度予算概算要求の新規事業箇所として要求する。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※B/Cの上段の値は輪島IC（仮称）～小矢部砺波JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（平成 28 年度新規事業箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
高規格幹線道路ネットワークの形成による能登地域への企業活動、観光振興、救急搬送を支援し、七尾市内の交通渋滞の緩和に寄与するものである。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	能越自動車道は、災害時における緊急輸送道路として、県民の安全・安心の確保に大きな役割を担う重要な路線であり、当該区間がミッシングリンク区間として「最後のワンピース」となっている。	※北陸圏広域地方計画（H21.8） ・地震発生時の救命救急や、応急復旧、さらには、復興に不可欠な交通ネットワークを確保するため、高規格幹線道路網やバイパスの整備を行う。
住民生活	七尾市街地部は事故危険区間が連続し、死傷事故率は、北陸管内直轄国道平均の約3倍である。また、七尾城山 IC のアクセス道路が通過交通の抜け道として利用され、住民生活の安全・安心を阻害。	※北陸圏広域地方計画（H21.8） ・日常の暮らしにおける通院や3次救急医療施設への交通アクセス等、救急活動に不可欠のちと暮らしを支える地域交通ネットワークを強化するため、能越自動車道や主要都市の環状道路の必要な整備を推進する。
地域経済 地域社会	北陸新幹線開業や能越自動車道の延伸に伴い、企業進出や主要な観光地の入込客が増加。しかし、金沢地域と比べ、能登地域は減少・伸び悩み傾向であり、能登の地域資源を活かした周遊観光の促進が大きな課題。	※北陸圏広域地方計画（H21.8） ・北陸圏・中部圏に点在する観光地へのスムーズなアクセスを可能にし、それらを周遊する魅力的な広域観光ルートを構築するため、両圏域を繋ぐ高規格幹線道路を始めとする交通ネットワークの必要な整備を推進する。
その他		

事業の有効性									
<p>・当該事業の実施により、能越自動車道全体の主要拠点間のリンクの評価がCランク→Bランクに改善するとともに、事業区間単体においても累積脆弱度の変化量が減少し、ネットワーク全体の防災機能が強化される。</p> <p>・また、本事業において、高規格幹線道路ネットワークの形成による能登地域への企業活動、観光振興、救急搬送支援、七尾市内の交通渋滞の緩和など有効性の高い事業と評価する。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	七尾市	穴水町	22 (2)	0.57 (C) (0.04) (B)	0.24 (B) (0.04) (B)	▲168.59 (▲0.17)	0.08 (0.04)	0.41 (0.03)	◎

事業の効率性
都市計画決定済み（平成23年12月13日）

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は輪島 IC（仮称）～小矢部砺波 JCT を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果